

令和7年度宮崎県林業用種苗需給連絡協議会概要

令和7年12月25日

13:30～14:45

森 林 経 営 課

議事（１）種苗需給について

令和7年春期需給実績、令和8年春期需給見通し、令和9年春期山行苗木需要量見通しについて説明し、需給情報の共有を図った。（別添「協議会資料」）

- 【林田委員】 令和8年春期のクロマツの需給見通しだが、海岸マツ林の被害からして需要はもっと多いのではないか。他県では抵抗性マツ生産を止めているところもあり、入ってこなくなる。
- 【事務局】 需要量については、再度、確認したい。
- 【林田委員】 樹苗組合ではスギの露地苗、コンテナ苗とも不足する見通し。露地苗は、挿し付け後の少雨と、育成中の水分不足により枯れており、露地を止めてコンテナに切り替える生産者が増えてきた。
- 【本田委員】 当組合は、スギ苗木が足りない状況にある。
- 【白石委員】 整備センターの造林面積（予算）は、ここ数年横ばいで推移している。
- 【矢野根委員】 露地苗は年々減少しコンテナ苗は増加しているが、コンテナ苗は手間がかかるので露地苗の減少分をカバーできず、トータルとしてスギ苗木生産量は若干減っている。
- 【林田委員】 需給実績表を見ると、スギが過剰生産されているようにみえる。
- 【事務局】 「生産量」には移出や床替え、廃棄も含まれており、その「生産量」から「県内の需要量」を差し引いた本数を「過不足」としているが、余剰として計上した苗木のほとんどは、右表の移出入実績に示すように県外へ出荷されている実態にある。
- 【林田委員】 この表だと過剰生産に見えるので、誤解を与えないような表にしたらどうか。
- 【宮川議長】 再造林率90%に向けて取り組んでいる補助率の嵩上げ事業の実施などにより、今年春の造林面積が昨年同期に比べて117ha増えており、効果が現れている。
苗木関連では、施設整備への支援や生産技術研修に取り組んでいるので、活用してほしい。

議事（２）種苗移入承認について

令和8年春期の種苗移入承認申請については、異論もなく承認された。

※ その他

- 【林田委員】 県内の生産者からの要望として、コンテナ苗、特に特定苗木、エリートツリーの生産経費が上がっており、新たに価格を設定してほしいとの声が上がっているため、情報として繋いでおく。

規格についても、露地苗と同様に区分するなど検討の余地はあると思う。

【事務局】 価格については、他県の価格も含めて、樹苗組合と県森連との協議に情報提供するなどしていきたい。

規格については、35cm 以下だと下刈り時に誤伐されやすいとの話もある。単純に規格を上げると出荷できない苗木も出てくる可能性もあることから、林業技術センターも交えて検討したい。

【林田委員】 生産者及び需要者は本協議会の資料に関心を寄せているので、開催時期をもっと早くできないか。

【宮川議長】 早めに開催できるよう調整したい。

【以上】